

スポーツ人文・応用社会科学系

氏名 まえ 前 だ 田 ひろ 博 こ 子 准教授



主な研究テーマ

- 地域スポーツクラブにおけるボランティア・マネジメントの研究
- スポーツとジェンダー，サッカーの社会学

平成22年度の研究内容とその成果

現在取り組んでいる研究テーマは、若者がスポーツクラブでボランティア指導を行う場合、どのようなマネジメントが良いかを明らかにすることです。スポーツクラブという組織で若者をマネジメントするというと、管理方法と捉えられるかもしれませんが、ここで取り組んでいるマネジメントは一般的な管理という概念ではなく、ボランティアをする若者が気持ち良く活動でき、また自らの持つ力を精一杯発揮することができ、さらには成長していくための受け入れ体制を考えることです。

この研究の背景には、以下のような社会の現状があります。1995年の阪神淡路大震災の場で、多くのボランティアが支援活動を行い大きな力を発揮したことから、この年をボランティア元年と呼んでいます。また、教育現場ではボランティア活動を経験するプログラムを用意することが進められています。その結果、現在の大学生年代の若者のボランティアへの意識や関心は高まっています。一方、社会の方向は、行政を縮小化し、住民の主体的な組織による活

動への期待が高まっています。スポーツに関しても行政が直接支援する場は減少し、住民組織を通じた間接的な支援に留まる方向が見られます。このような状況から、若者が住民組織の地域スポーツクラブでボランティアとして活動することが期待されます。そこで、このような若者側に望まれる適切なマネジメントに関する研究が必要なのです。

人のマネジメント方法についてはいろいろな理論がありますが、リーダーシップ理論もそのひとつです。リーダーシップ理論にもさまざまなものがありますが、ここではSL理論を使用しています。リーダーシップ理論の多くが共通するのは、リーダーの行動を2つの軸－フォロワーに対して指示を与える行動や言動とフォロワーを支援する行動や言動－によって説明しているところです。そして、効果的なリーダーシップ行動とは、この両軸が高いレベルにあるとしています。しかし、そこに影響を与える要因があり、SL理論はその効果を左右する要因としてフォロワーの状態に着目しています。つまり、活動を始める時に企業の

採用のような選別をされないボランティアの場で、力量に差があり、かつ成長の著しい若者を対象にする場合、SL理論を適用したマネジメントに研究の意義があると考えました。

そこで、平成22年度は、若者集団に対するリーダーシップ理論によるマネジメントを課題にして研究を進めました。

まず、大学生の運動部員を対象に質問紙調査を実施し、的確なリーダーシップ行動について検討しました。その結果、部員は必ずしも強い指示と支援をリーダーに求めているとは言えないことが明らかになりました。これまで、スポーツ集団においては強いリーダーシップが望ましいとされてきた先行研究が多かったのですが、ここでは異なった結果が得られました。つまり、的確なリーダーシップ行動とはフォロワーの状況によって異なるとするSL理論を実証する結果でした。特にフォロワーの持つ「能力」よりも、活動に対する「意欲」に左右されがちであることが分かりました。

この研究は質問紙法で調査データを収集し、得られたデータを統計的手法で分析していく方法を取りました。しかし、フォロワーの状態に着目する研究として、今後は対象者を個別に見ていく質的研究を積み重ねることが必要と考えています。そのことから、スポーツクラブでボランティア指導を行っている学生を対象にインタビュー調査を開始しています。

平成22年度は、この他、いくつかの共同研究を進めています。サッカーに関わる研

究としてはサッカークラブの指導者に着目し、インタビュー調査を用いて現状の問題点を明らかにし、またリーダーシップ理論を適用して指導者の課題を検討しました。

また、日本スポーツとジェンダー学会、日本フットボール学会、九州レジャーレクリエーション学会の理事として、他にも九州体育・スポーツ学会の事務局として、それぞれの学会の運営を行い、研究発表の場を發展させることに尽力しています。

これからの研究の展望

今後は、昨年度末から始めているインタビュー形式による質的データの収集を進めていきます。そして、地域スポーツクラブで活動する若者は、どのような特徴を持った者がどのようなリーダーシップ行動を望むのかを明らかにしていこうと考えています。特に、活動を始めてからの経緯について注目し、個人の変化と成長を反映したマネジメントモデルを作成していく計画です。